

(議事要旨 2) 企業会計基準委員会の活動状況について

企業会計基準委員会（ASBJ）の紙谷副委員長及び中條委員より、日本基準の開発の状況について説明がなされ、質疑応答が行われた。続いて、ASBJ の山口委員より、国際対応の状況について説明がなされ、質疑応答が行われた。

日本基準の開発の状況

ASBJ からの報告について、主に、四半期報告書制度の見直しへの対応、継続企業に関する会計基準等のプロジェクトに関して、企業会計基準諮問会議の委員との間で質疑応答が行われた。

国際対応の状況

ASBJ からの報告について、主に、持分法、財務諸表における気候関連及びその他の不確実性等のプロジェクトに関して、企業会計基準諮問会議の委員との間で質疑応答が行われたほか、企業会計基準諮問会議の委員より、以下の意見が聞かれた。

(財務諸表における気候関連及びその他の不確実性)

- 監査人として重要なテーマであると考えており、プロジェクトの目的には賛同するが、公開草案「財務諸表における気候関連及びその他の不確実性」において、設例のみを提供することで国際会計基準審議会（IASB）の意図が十分に伝わるかどうかについて懸念している。

(無形資産)

- プロジェクトの初期の段階であるが、途中から方向を変えていくことは難しいため、しっかり意見発信していくべきである。
- 本年 2 月に IASB 理事と意見交換を行い、財務諸表利用者として概ね共通と考えられる意見を伝えている。具体的には、プロジェクトの範囲の考え方、プロジェクトへの期待（IAS 第 38 号「無形資産」の開発時に想定されていなかった項目への対応、のれんと無形資産の関係の再整理、関連する減損損失の認識及び測定の見直し、表示の整理及び開示の拡充）、国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）との連携の重要性等がある。

(IFRS 財団公開草案「IFRS 財団デュー・プロセス・ハンドブックの修正案」)

- 適用後レビューの開始時期、頻度について、実務が定着してからでは望ましい会計基準等への見直しのハードルが高くなるため、我が国からの意見発信の効果が期待できる仕組み作りに向けて積極的にコメントを伝えていくべきと考える。また、その前提として、

関連する会計基準等の開発の段階で公表される公開草案に対して、我が国の関係者の見解を踏まえて意見発信を行い、反対の点はしっかりと伝えていくべきである。

(その他)

- IASB では、持分法、無形資産のプロジェクトにおいて、市場関係者にとって納得しづらい方向で検討が進められているところ、米国財務会計基準審議会（FASB）から、昨年 12 月に公表されたインタンジブルズに関する意見募集や、本年 1 月に公表されたアジェンダ協議に関する意見募集で、同様のテーマが扱われており、ASBJ からの意見発信を期待するとともに、基準諮問会議でも状況を報告いただきたい。

以 上